

学校長様
生物科様

大阪府高等学校生物教育研究会
会長 神絵里香

令和7年度(第54回)会員研究発表会開催について(依頼)

厳寒の候、貴校ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は本研究会の活動に格別のご配慮をいただき、誠にありがとうございます。

標記の発表会を下記の通り開催いたします。校務ご多忙のことと存じますが、生物科等の教職員の出席について、ご配慮下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 令和8年1月30日(金) 午後2時半～4時

2. 場 所 大阪府立夕陽丘高等学校(〒543-0035 大阪市天王寺区北山町10-10)
*交通: JR環状線 桃谷駅 西0.5km

3. 発表テーマ

(1) 生成AIを用いた授業のまとめ採点システムの構築

小瀧 允(府立大冠高校)

生徒が提出する毎時の授業のまとめを生成AIに採点させ、生徒へ翌日、自動返却するシステムを構築した。本システムを活用することで、公平な採点を即時行い、生徒の文章作成力や授業の取り組み方の見直しなどを実現できる。

(2) 環境保全活動を題材とした予算分配ゲームの開発

小瀧 允(府立大冠高校)

生態系の保全を題材として、環境・社会・経済の三側面と意思決定を体験的に学ばせるカードゲームを開発した。発表ではゲームの内容と生徒の振り返りをもとに、学習効果について紹介する。

(3) クマムシの採取・飼育方法及び課題研究の題材としての可能性について

山田 汐織*, 高嶋 浩紀*(府立生野高校)

学校やその周辺のコケに生息し、簡単に採取・観察が可能なクマムシ。クマムシの採取、観察方法、飼育方法のコツをお伝えします。また、今年度課題研究の題材としてクマムシ扱った班がありますので、その班を指導した所感をお伝えします。

(4) インスリンの抽出方法を立案する教材の開発

岡本 元達(府立牧野高校)

新学習指導要領では探究の過程や主体的・対話的で深い学びが重視されている。生物基礎の体内の情報伝達の分野では実際に実験を行うことが難しいことがあり、資料を用いて見出す活動が行われている。今回バンディングが過去の研究からインスリンの抽出実験を立案した科学史を用いて内分泌系と酵素の知識と初見の情報を活用してインスリンの抽出方法を立案する教材の開発を行った。

(5) 生成AIを用いた実験分析ツールの作成と授業実践～体細胞分裂の観察～ 朝倉 直人(府立柴島高校)

実験の考察時間を確保するため、生成AIを用いて細胞カウントアプリを開発した。その結果、データ処理が効率化され、生徒の科学的考察が深まった。本発表では、ツール機能、授業成果、および生成AIによる教材開発の可能性と課題について報告する。

(6) 読本教材『種痘の歴史』の開発と授業実践の研究

片山 徹(大谷高校/四天王寺高校)

免疫の範囲で、生徒の生活に役立つ教養としての『種痘の歴史』について、科学の方法や社会の反応、ワクチンの意味などについて読本の形で教材を開発し、実際に授業を行って、得られた感想や課題について報告したい。

〈連絡先〉

大阪府高等学校生物教育研究会 行事係

〒595-0012 泉大津市北豊中町1-1-1

大阪府立泉大津高等学校

生物科 濱野 彩

TEL: 0725-32-2876 FAX: 0725-32-6394

E-mail: t-hamanoa@e.osakamanabi.jp